



### ■八重籠神社

(市指定史跡)  
八重籠神社は藩祖を神格化したものです。備中松山藩主板倉家の始祖板倉勝重(1545~1624)、二代重宗(1586~1656)を祀った神社で、寛政5年(1793)藩主板倉勝政(1759~1821)が勝重を神格化し、備中松山城御根小屋に祀ったのが始まります。



### ■御前神社

城下町の中の神社で特に信仰を集めたのは御前神社と八幡神社です。御前神社は宝亀6年(775)の創建といわれ、延応2年(1240)有漢郷の新地頭であった秋庭重信が備中松山城主となって以来、歴代城主の信仰を集めてきました。小高下にありましたが、現在地へ遷宮されたのは元和7年(1621)のことでした。八幡神社は延暦年間(782~806)の創建といわれ、御城の鎮守として歴代城主の崇敬を受けました。江戸時代後期には備中松山城と城下町を囲むように配置された5つの八幡宮(五社八幡宮)の中心として位置付けられました。



### ■八幡神社

城下町の中の神社で特に信仰を集めたのは御前神社と八幡神社です。御前神社は宝亀6年(775)の創建といわれ、延応2年(1240)有漢郷の新地頭であった秋庭重信が備中松山城主となって以来、歴代城主の信仰を集めてきました。小高下にありましたが、現在地へ遷宮されたのは元和7年(1621)のことでした。八幡神社は延暦年間(782~806)の創建といわれ、御城の鎮守として歴代城主の崇敬を受けました。江戸時代後期には備中松山城と城下町を囲むように配置された5つの八幡宮(五社八幡宮)の中心として位置付けられました。



### ■武家町の姿をよく残す石火矢町の通り

石火矢町の旧堀原家、旧折井家の武家屋敷やその周辺では、土塀が連続し、武家町の景観を見せています。武家町は、規模の大小はありますが門が構えられ、土塀をめぐらし、間口の大きな敷地割りの土地に前庭をとって道から少し引いて建てられることが特徴です。



### ■旧折井邸



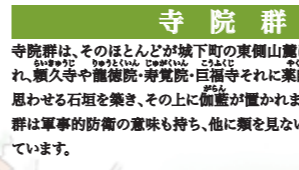
### ■旧堀原邸

(市指定重要文化財)



### ■頼久寺・庭園

(国指定名勝)  
足利尊氏が備前国に命じて建立させた安国寺の一つ。境内左奥には寺号になった中興の開基松山城主上野頼久公の墓と、戦国期織田信長の中国制覇と毛利一族の中央進出の戦である備中兵乱で、天正3年(1575)に悲運の死をとげた備中松山城主・三村元親公の墓、一子勝法師の墓、父家親公の墓があります。国指定名勝の庭園は備中国奉行・小堀遠州公の初期(1605年頃)の作庭です。



### 寺院群

寺院群は、そのほとんどが城下町の東側山麓に連なるように配置され、頼久寺や龍徳院・寿覚院・巨福寺それに東御院・松連寺は城郭を思わせる石垣を築き、その上に伽藍が置かれました。この一連の寺院群は軍事的防衛の意味も持ち、他に顔を見ない独特の景観を形成しています。



### ■龍徳院



### ■寿覚院



### ■定林寺



### ■道源寺



### ■威徳寺

成羽藩主山崎家、備中松山藩主安藤家にゆかりのある寛永15年(1638)創建の龍徳院、寿覚院、板倉家臣の墓所がある文保4年(1595)創建の道源寺、藩主水谷氏の菩提寺で貞享3年(1686)創建の定林寺、社殿な石垣を有し、寛永元年(1624)建立の本堂を有する東御院、大名の祈禱を行っていた松連寺があり、江戸時代前期の藩主池田氏の菩提寺威徳寺がさらに南にあります。また、安正寺は延享元年(1744)に伊勢龜山(現・三重県亀山市)から藩主板倉家の所管とともに移された菩提寺です。



### ■薬師院



### ■松連寺



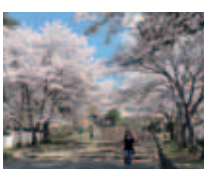
### ■威徳寺



### ■備中松山城

(国重要文化財・史跡)

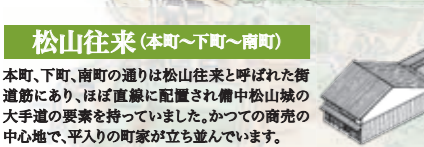
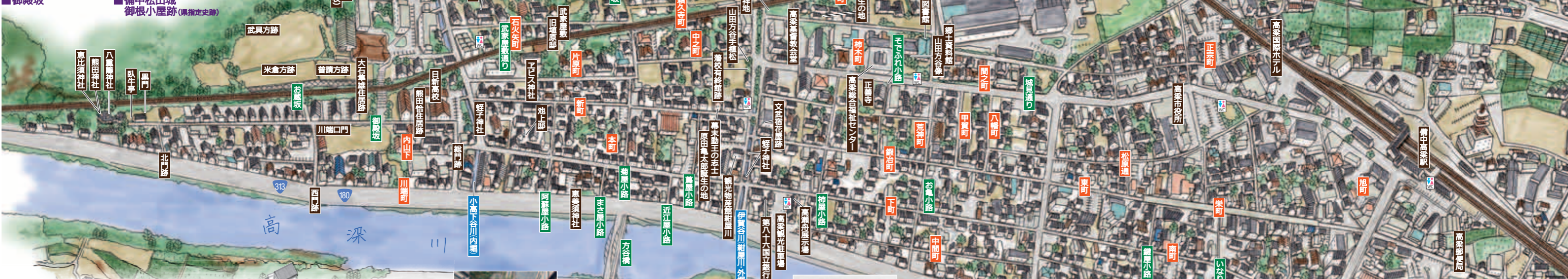
備中松山城を有する臥牛山は4つの峰の「大松山・天神の丸・小松山・前山」からなります。小松山にある備中松山城は天守が現存する近世の山城です。臥牛山一帯が中世の遺構を備えており日本の山城の典型ともいわれています。



### ■御殿坂



### ■備中松山城御根小屋跡



### ■松山往来(本町~下町~南町)

本町、下町、南町の通りは松山往来と呼ばれる街道筋にあり、ほぼ直線に配置され備中松山城の大手道の要素を持っていました。かつての商売の中心地で、平入りの町家が立ち並んでいます。

### ■平入りの町家

高梁の伝統的町家の形態は、敷地は東西に長い短冊形が基本で、間口が狭く、奥行き長い敷地に建ち、その敷地の道路側に主屋が設けられ、その背後に放事場・風呂・便所・土蔵などの付属屋が連なっていく形式です。



### ■本町通り(池上邸)



### ■下町通り



### ■南町通り



### ■近代化遺産



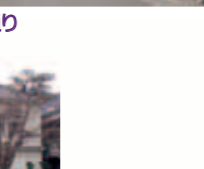
### ■旧順正堂

(県指定史跡)  
明治29年(1896)の豪洋風木造建築。福西志計子が設立した県下最初の女子学校・順正女子学校の校舎であり寄宿舎でした。



### ■高梁基督教会堂

(県指定史跡)  
明治22年(1889)に建設された、日本最古のプロテスタント教会。県下最古の教会建築は、吉田伊平の設計によるもので、昭和34年(1959)には、創立75周年を記念して鐘楼が増築されました。



### ■高梁市郷土資料館

(市指定重要文化財)  
旧高梁尋常高等小学校本館で、地元の大工・妹尾友太郎による豪洋風建築。二階の豪壮な講堂は明治の気風をそのまま伝えています。明治37年(1904)竣工。現在は郷土資料館として、江戸時代から昭和初期にかけての生活用品など、約3000点を展示公開しています。



### ■阿蘇屋小路



### ■観光物産館 紺屋川

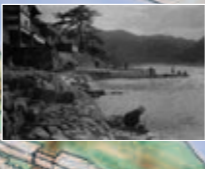


### ■伊賀谷川(紺屋川)



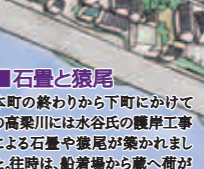
### ■七恵比寿

恵比寿社は、恵比寿信仰のもとに講があり、講が建てられ祭りが営まれており、7カ所あることから「七恵比寿」と呼ばれています。下町の蛭子川は町に出雲大社の分府ができてからは分府の宮司が祈禱するようになっていますが、「城内」の恵比寿(八重籠、本町、新町)は御前神社、南の「城外」の恵比寿(観治町、南町)は八幡神社の宮司が祈禱します。七恵比寿では毎年旧暦の6月15日に宵祭り、6月16日に本祭りが行われています。商家が商売繁盛を願い、祭りには、親戚や出入りの者を招いて共同飲食をし、この日にはできるだけ飲食を出さないで、物が入る事を縁起がよいと誓って喜んでいました。今もその伝統は残り、地区毎に祭りが営まれています。



### ■石畳と猿尾

本町の終りから下町にかけての高梁川には水谷氏の腰岸工事による石畳や猿尾が築かれました。往時は、船着場から船へ荷が積み下ろしされていました。



### ■常夜燈

常夜燈は高梁川沿いに3カ所あり、このうち最も下流にあるものは和霊神社にあります。ここは渡し場の狹に位置し、水中の境界から町々々々を守っていました。町中でも東町の端に御前宮と常夜燈があり、当時南町や東町、高梁川沿いが城下町の端であったことを思い起こさせます。



### ■高梁大橋



### ■常夜燈

常夜燈は高梁川沿いに3カ所あり、このうち最も下流にあるものは和霊神社にあります。ここは渡し場の狹に位置し、水中の境界から町々々々を守っていました。町中でも東町の端に御前宮と常夜燈があり、当時南町や東町、高梁川沿いが城下町の端であったことを思い起こさせます。



### ■常夜燈

常夜燈は高梁川沿いに3カ所あり、このうち最も下流にあるものは和霊神社にあります。ここは渡し場の狹に位置し、水中の境界から町々々々を守っていました。町中でも東町の端に御前宮と常夜燈があり、当時南町や東町、高梁川沿いが城下町の端であったことを思い起こさせます。

